かあさんうさぎと金のくつ

原作 ドボーズ・ヘイワード
文 かとう ひさこ
絵 とみなが ひでお

かあさんうさぎと金のくつ

原作　ドボーズ・ヘイワード
文　かとう　ひさこ　　絵　とみなが　ひでお

女子パウロ会

春が　近づくと、それまで　すっかり
かれて　しまったように　見えて　いた
草や　木から、小さな　めが　出て　きて、
それが　少しずつ　ふくらんで　きますね。
山や　森では、たくさんの小鳥たちが
あかちゃんの　ために、せっせと　すを
つくりはじめます。
こうして、生きものたち　みんなが
新しい　せいかつを　はじめるころ、
イースターと　いう　大きな　おいわいの
日が　やって　くるのです。
イースターって、なんの　日か　知って
いますか？　それは、キリストさまが
じゅうじかの　上で　なくなられた　あと、
三日めに　生きかえられた　ことを
おいわいする　日　なのです。

ずっと　むかしから、イースターには、
新しい　いのちを　あらわす　たまごを
プレゼントする　しゅうかんが　ありました。
この　イースターたまごを　せかいじゅうの
子どもたちに　とどけるのが、　五ひきの
イースターうさぎ　だったのです。
この　五ひきの　うさぎは　どこの　どの
うさぎよりも　しんせつで、かしこくて、
そのうえ　早く　起れる　うさぎばかり
でした。その　わけは、イースターの　前の
日、お日さまが　西の　空に　しずんでから
つぎの　日の　イースターの　朝までの
みじかい　時間に、ふつうだったら　一年
かかっても　おわらないくらいの　しごとを
やらなければ　ならないからなのです。

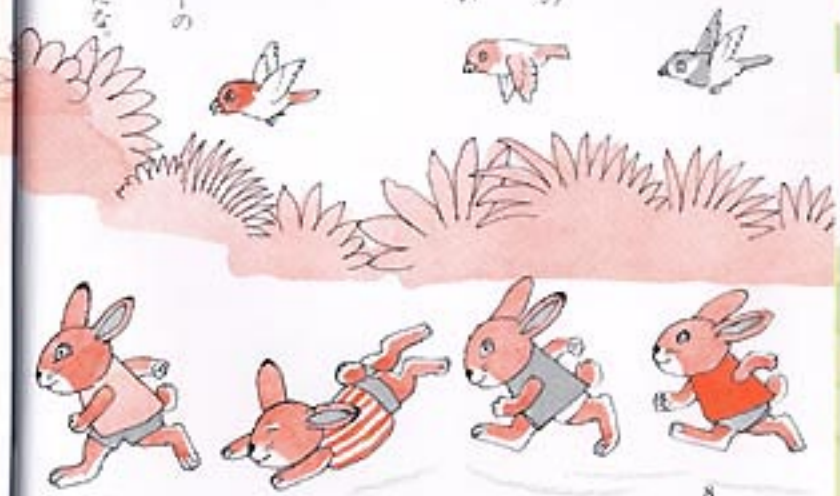
「イースターたまごの　おしろ」には、
かしこく　やさしい　えらい
おじいさまうさぎが　すんで　いて、
この　たいせつな　しごとを　かんりして
いました。
　ひろびろと　した　きれいな　おしろには、
五ひきの　イースターうさぎしか　はいる
ことが　できません。でも　たくさんの
うさぎたちは、おしろの　中の　りっぱな
ことや　五ひきの　うさぎの　すばらしい
はたらきを　聞いて　いましたので、だれも
かれもが　イースターうさぎに　なりたいと
思って　いました。
　イースターうさぎが　年を　とって　きて
早く　走れなくなると、かしこい　やさしい
えらい　おじいさまうさぎが、せかいじゅうの

うさぎを　あつめて、その　中から
いちばん　よい　うさぎを　えらぶのでした。
りっぱな　うさぎなら　男でも、女でも
イースターうさぎに　なる　しかくが
あるのです。ですから　どこの　うちでも、
おかあさんうさぎが　子うさぎたちに　こう
いいきかせます。
「いいですか？　おりこうで　しんせつで
早く　走れるように　なるんですよ。
そうしたら、イースターうさぎに　なれるかも
しれないんですからね。」
　すると　子うさぎたちも、大きく　なったら
「たまごの　おしろ」で　おじいさまの
おてつだいを　しようと、いっしょうけんめい
どりょくするのでした。

ある　村に、茶色の　小さな
野うさぎの　女の子が　いました。
わた毛の　まあるい　しっぽと、
きらきらする　目が　かわいい
この　女の子も、イースターうさぎに
なる　ゆめを　もって　いました。
「わたし、いまに　きっと
なって　みせるわ。みんな　見てて
ちょうだい。」
野うさぎの　女の子は、ある　日。

ともだちに　こう　いいました。
すると、りっぱな　家に　すんで
いる、からだの　大きい　うさぎや、
すばしこい　足ながうさぎたちは、
わらって　あいてに　しません。
「おまえなんか、いなかで
にんじんでも　かじってる　ほうが
おにあいさ。」
でも　野うさぎの　女の子は、もう
いちど、
「いまに　見てらっしゃい。」
と　いうと、帰って　いきました。

月日は　すぎて、野うさぎの
女の子は　おとなに　なり、やがて
けっこんしました。そして
二十一びきの、まあるい　わた毛の
しっぽを　もつ　あかちゃんうさぎの
おかあさんに　なったのです。
それを　知った　からだの　大きい
白うさぎや、足ながうさぎたちが
やって　きて、わらいころげながら
とくいそうに　いいました。
「だから　まえに　いったろ。
やっぱり　おまえは　いなかの
うさぎさ。せいぜい　あかんぼうの
せわでも　して　いろよ。イースターの
たまごは、おれたちのような
大きな男たちに　まかせて　おくんだな。



せかいじゅうを　とびまわって
小さな　子どもたちに、きれいな
たまごを　とどけるなんて、どんなに
すてきな　ことでしょう。
でも　野うさぎの　おかあさんは
もう　そんな　ことは　考えないで
せっせと　あかちゃんたちの
せわを　しました。

子どもたちが　少し　大きく　なった　ある　日の
ことです。
まあるい　わた毛の　しっぽの　おかあさんうさぎは、
二十一びきの　子どもたちを　よんで　いいました。
「これから　楽しい　ことを　しましょうね。」
おかあさんうさぎは、まず　二ひきの　子うさぎに
ほうきを　わたして、そうじの　しかたを　教えました。
ほかの　二ひきには、　ベッドをきれいに　する　ことを
教え、　つぎの　二ひきには、だいどころへ　つれて
いって、おいしい　りょうりを　つくることを
おぼえさせました。
　こんな　ふうに　して　二ひきずつが　ひと組に　なって、
おさらや　コップを、ぴかぴかに　みがけるように
なった　ものや、たらいで　なんでも　せんたく　できる
ひと組も　できました。さいほうと　つくろいものが
じょうずに　なった　ひと組も　います。